



第110号 令和8年2月

編集発行 庄内教育事務所 指導課
〒997-1301
東田川郡三川町大字横山字袖東7番1号
TEL0235-68-1982/FAX0235-66-3015

各種研修会へのご参加 ありがとうございます

今年度予定していた庄内教育事務所主催の研修会をすべて終えることができました。参加して下さった先生方、送り出してくださった管理職の皆様、補欠授業等で後方支援して下さった先生方に感謝申し上げます。

価値観が多様化し、学校や子どもを取り巻く環境も大きく変わっている今、慣例に縛られず考え方をブラッシュアップしていくことが必要です。研修会への参加が、先生方ご自身と子どもたちに還元するものとなるよう、来年度も内容を吟味して実施していきます。

「魅力ある授業づくり」への確かな歩み

①「アクションプラン」の成果と課題から

アクションプランについては、各校の実態を踏まえて工夫しながら取り組んでいただき、ありがとうございます。ご提出いただいた12月の振り返りで多く挙げた内容を、以下にまとめました。

- 単元のゴールを明確にして、学習計画と合わせて子どもと共有したことで、「何を学ぶのか」「なぜ学ぶのか」「どのように学ぶのか」などの意識が高まり、主体性につながった。
 - 自分事となる課題づくり、教師の「出と待ち」、子どもどうしや教材との「つなぎ」を意識するなど、学びを深めるための授業のマネジメントに力を入れていきたい。
 - 家庭学習について、その目的を自覚し、取り組む時間や内容などを自分でデザインする力をつけることを意識したやり方に変えようとしている。（読書を家庭学習に入れている学校も）
 - 子どもの姿を語る事前研・事後研にした。職員研修で全国学調を解き、指導のポイントを確認した。子どもの姿や成果と課題をふまえ、目指す資質・能力についてワークショップを行った。
- ▶基本的な構え（とくに「聞く（聴く）力」）、基礎学力の弱さを感じる。
 - ▶対話（双方向のやり取り）が深まらない。課題を見つけ、試行錯誤しながら学ぶことが苦手。
 - ▶学習規律や行動面の改善を優先し、「主体性をもって学ぶ姿」の価値づけや共有が十分でなかった。規律も大切ではあるが、主体性を伸ばすことを意識した授業づくり、日常の関わりが必要。

子どもたちが学びたいような、または、「そもそもなぜ学ぶのか」を意識した授業づくりが進んでいると感じました。一方で、その基盤となる学習の構えや基礎学力の弱さを懸念する記述が多くなった印象も受けました。これまでも重視されてきた「習得・活用・探究」は、まさに「バランス」が大切であり、習得（基礎基本）と活用や探究は、どちらか一つではなく、両輪として駆動することが大切です。各校の実態に応じた「ちょうどよいバランス」について、改めて吟味してみたいでしょうか。

②教科担任マイスター ベーシック研修より



10名のマイスターの先生方、1年間ありがとうございました！

マイスターの先生方には、各校において算数と英語の教科担任制の推進、ICTの活用を踏まえた日常的な授業改善に意欲的に取り組んでいただきました。

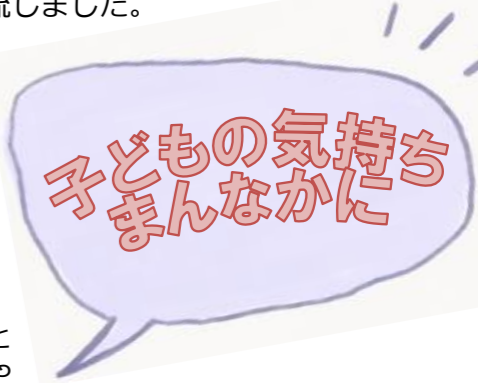
これまでも、学校内外の研修を通じてその指導力を磨き、庄内管内の学力向上を牽引していただきましたが、最後の研修として、「好き・分かる・できるにつながる単元づくり」を行いました。

単元構想の大切さは言うまでもありませんが、習得で終わらず、「習得したことを活用・探究する」、言い換えれば、「生きて働く『確かな知識』を身に付ける」ことまで見込んだ単元づくりについて、それぞれの教科において考えました。 → → くわしくは、こちら → →

2月17日、今年度2回目となる不登校児童生徒の自立支援に係る地区ネットワーク会議を開催しました。市町教育委員会やSSW、民間支援団体や親の会の方などが一堂に会し、それぞれの取り組みを共有するとともに、支援の在り方について日ごろ感じていることを交流しました。

国や県の傾向と同様に、庄内管内においても、不登校児童生徒は増加しています。それに伴い、各校、関係機関において、さまざまな工夫をこらして対応していますが、個々の課題や背景は多様化・複雑化しており、一筋縄にはいかない現状があります。

そのような現状を出し合うなかで、一つの共通認識として確認できたことは、「その子は、どうしたいのか」「その子の気持ちを大切にすること」でした。不登校という状態を前にしたとき、周囲の大人は、理由を明らかにしようしたり、「なんとかしたい」とさまざまな手立てを講じようとしたりします。もちろん、その気持ちや行動はその子を思ってこそそのものですが、ときに、肝心の「その子の気持ち」が置き去りになってしまい、本人も周囲も苦しい悪循環になってしまうことがあると、話題になりました。



これだけ急速に社会が変化し、考え方が多様化した今、不登校をどのように捉えて対応していくのか、とても難しい局面にありますが、その子が今苦しんでいる状況、または、これまで苦しんできた思いに心を寄せることをまんなかに置きながら、たとえ小さなことでも、学校を含めた関係各所それぞれができることをつなぎ合わせ、その子を支えるネットワークになればと、認識を共にしたところです。



単元の目標(指導事項の確認)

目標(指導事項)を明確にしたら「ゴールの姿」を具体的にイメージ

ゴールのために必要なことを検討

- ★基本事項はいつ? どうやって?
- ★活用場面をどう設定する?
- ★時間をかけたいのはどこ?
- ★評価の場面は? など

ゴールの姿から単元設計

単元終了時の子どもの姿

何ができるようになっている?
学びに向かう姿はどうなっている?

この終末の活動だと、せっかくの既習事項が使われないような...

やっぱり、自分でやってみる時間が必要だよの~



このグループ活動の意味って!?

そもそも...これ楽しいが!?

